

平成22年度 第1回豊田市商業振興委員会会議録

【日 時】 平成22年4月28日(水) 午後2時00分～5時00分

【場 所】 豊田市役所 南庁舎5階 南53会議室

【出席者】

委員

加藤 勇夫〔愛知学院大学名誉教授〕
河木 照雄〔豊田商工会議所副会頭〕
杉戸 厚吉〔社団法人地域問題研究所計画部長〕
浅井 良隆〔コンサルティング オフィス アット・ドリーム〕
澤田 恵美子〔豊田市消費者グループ連絡会会長〕
松井 栄子〔三州足助公社〕

事務局

鈴木 辰吉〔豊田市産業部長〕
畔柳 寿文〔豊田市産業部調整監〕
太田 錬治〔豊田市産業部商業観光課長〕
清水 章〔豊田市商業観光課副主幹〕
松澤 秀記〔豊田市産業部商業観光課係長〕
小林 洋明〔豊田市産業部商業観光課主査〕

傍聴者

なし

【次 第】

- 1 開 会
- 2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
- 3 委員長あいさつ
- 4 審議事項
 - (1) 商業活性化推進交付金 H21 年度実績報告について
・豊田まちづくり株式会社
 - (2) 商業活性化推進交付金 H21 年度実績報告及び H22 年度事業計画について
・足助商工会
 - (3) がんばる商店街応援プランローリングについて
- 5 閉 会

【会議録（要約表記）】

1 開会

事務局より、平成22年度第1回豊田市商業振興委員会の開会の宣言が行われた。

2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて

事務局より、資料の確認、傍聴人数、審議スケジュールについて説明が行われた。

3 委員長あいさつ

加藤委員長よりあいさつが行われた。

4 審議事項

(1) 商業活性化推進交付金 H21 年度実績報告について

・豊田まちづくり株式会社

豊田まちづくり(株)より資料に基づき内容説明を行い、委員から意見をいただいた。

【主な質疑応答】

委員

豊田市にキャリア層のニーズがあるのか疑問。買物は女性がメインで、男性はそれに付き合うケースが多いのでは。その付き添いの男性をターゲットにする方が効果あるのでは？

まちづくり

男の遊び場的な専門書も含めた本屋を充実させるところもあるが、豊田市は中途半端な状況。考えていく必要がある。女性キャリアの割合も増えているが、行動範囲が広すぎる。アウトレットモールや名古屋へ50分で行けてしまう。どこで勝負するか、夫婦、ファミリーも狙い目で、飲食もそういった方向に向けて進めている。

委員

イベント事業の効果は？一過性の賑わいが目的ではなく、継続して来街を促すのが本来の姿。

まちづくり

中心市街地で行うイベントについては、大型店、商店の売上につなげていくことが目的。イベント開催週の通行量、入店客と売上を指標としてデータを取っている。また、スタジアムで行うイベントについては、市外からも集客し、豊田の認知度、好感度を上げることが目的として実施している。

まちづくり

中心市街地では、しょっちゅう楽しいことをやっているというイメージを演出していきたい。

委員

イベント集客を取り込むのは個店の自助努力。

委員

中心市街地のポジションは？お金、交通手段がない若者の期待は大きい。各年代層の来街目的をどのように作っていくかを検討する必要がある。飲食の二

ズは高い。合併中山間地域の特産品と組み合わせたグルメなども目玉になるのではないか。

委員

イベントを仕掛ける側の思いを、そのイベントを利用して商いする人が、きちんと理解して商売に結びつけることが大事。

(2) 商業活性化推進交付金 H21 年度実績報告及び H22 年度事業計画について ・足助商工会

足助商工会より、資料に基づき内容説明を行い、委員から意見をいただいた。

【主な質疑応答】

委員

空き店舗対策を商店街の端で実施しても、そこまで人が行かないのでは？

足助商工会

足助の商店街は一方通行で出口が一番奥。そこでイベントを実施すると商店街の一番奥まで誘客できる。今年の春に NPO が「体育とスポーツの図書館」という施設を立ち上げた。連携して宣伝していきたい。

委員

昨年度は不況で商店街を歩く人が激減した。しかし、少しずつできることから始めようとする姿勢が出てきた。

事務局

重要伝統的建造物群保存地区指定による街並み保存に期待している。ハードだけでなく、仕掛けを考える必要がある。

委員

観光し過ぎてしまうと街の良さがなくなる。

足助商工会

観光だけでなく、地域の商店街としてもしっかりと役割を果たしていきたい。現在、農家から野菜を仕入れ、商店街で売り、その仕入れの際に御用聞きをしてくるという双方向宅配を検討している。

委員

本事業の認定は妥当であると考えている。

(3) がんばる商店街応援プランローリングについて

事務局より、資料に基づき内容説明を行い、委員から意見をいただいた。

【主な質疑応答】

委員

中心市街地の中でも商業機能を集積しようと狙っている 23ha と全体の 196ha では議論を別にすべき。地域でも猿投、高岡、上郷、松平など商店街を組めないところが出てきているため、そのあたりをどのように支援していくか整理すべき。何でも自由に補助が受けられるべきではない。発展会等任意団体があるならば商店街連名に加入した上で、発展会すら組めないような個店ならば商業協同組合に加入した上で、その団体を通じて申請するなどきちんとしたスキームを作らなければならない。エリアと組織をもう少し細分化して整理する必要がある。また、大型店の売上が増えないのはマーケティングが甘いのであり、それは自助努力。ただ、商店街と連携する仕組みづくりという意味で条

例等の後押しがされると良い。市民ニーズについて、商業者が消費者に話を聞くことができるような仕組みづくりができないか。

委員

今の施策の中で抜け落ちる商業者がいるということか？

事務局

発展会は豊田市商店街連盟を通しての支援が出来るが、発展会すら組めないようなエリアは抜け落ちてしまっている。

事務局

勝ち残り戦略ではない戦略を立てる時代に入ってきた。がんばらない者を助けるつもりはないが、過度な競争に生き残るところだけを支援していくのではなく、地域全体のコミュニティを形成する上で商業という機能も欠かせないため、競争論理ではない商業機能も大切にしていこうという視点で補完的な対策も検討していく必要がある。

委員

現制度は細かいメニューがあるわけではなく、商店街活性化計画を策定すれば、様々なソフト事業が展開できるような使い勝手の良い制度となっている。ただ、せっかく良い制度があっても、それを利用できない者もいる。そのあたりをどう救い上げるか、そもそも救い上げる必要があるのか、その部分を検討するということがか？

事務局

そのとおり。

委員

合併地区は商工会がしっかりしているため、商業者をきちんと指導し、商業機能の保存をしていくように進めていくことができる。むしろ、旧市内の方が心配である。区画整理が行われるときに商業機能が失われ、歩いて暮らしていけるまちづくりといいながら、車がないと生活に必要なサービスを受けられない状況になってしまっている。そういった地区が高齢化したときへの対応の検討が必要。例えば、意識ある商業者を集め、生活に必要な商業機能を貼り付けるような事業を行う場合に支援をするようなことも検討できないか。

委員

都心の高齢者が買物をできないという状況が各地で起きている。商店街は買物通りではなく、生活通りであるということを念頭に置きながら検討していかなければならない。

委員

店舗の塊のない地域に新たに商店街を作るとするのは非常に難しい。商店街組織から外れてしまう商業者が連携して何かすることに対する支援は、商業者を育てるという視点では検討の余地はある。高齢者問題については、他の仕組みと組み合わせないと難しいのではないか。例えば、介護事業者やタクシー業界との連携などが考えられると思うが、それはここで議論すべきか？目的ごとに整理して、目的に応じて、課題への対応策を検討すべき。

委員

国、県の補助も積極的に利用すべき。

委員

従来の制度では救えなかったが、今のうちに手を打っておいたほうが良い商店街を救う方法や、商店街組織から抜け落ちてしまった商業者で、意欲のある者をグループ化して育成する方法などの制度を検討する方向性が。

委員

市全体としての商業振興を考えるべき。魅力向上だけでなく、現在、欠落している部分、地域住民の生活の利便性の確保も検討しなくてはならない。

委員

施策対象に商業者以外の NPO 等地域の課題を解決するような団体も加えるべき。がんばるにもいろいろある。競争に勝つためのがんばるもあるし、地域を守るためのがんばるといったものもある。

委員

生活ニーズはたくさんある。商業振興の枠でどこまで見るか？市民活動支援、地域支援という手法もある。持続可能な方法というところある程度収入を見込む商業振興という視点にもなる。

委員

国の補助制度の所管で判断する方法もある。

5 その他（連絡事項）

今後の予定

平成 22 年度 第 2 回開催予定日 平成 22 年 6 月 3 日（木）14:00～

以上